

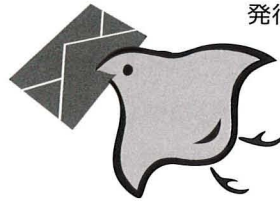
史実を世界に 発信する会たより

Vol.10 平成27年12月1日

発行所 史実を世界に発信する会

発行人 加瀬英明

編集人 茂木弘道



Society for the Dissemination of Historical Fact

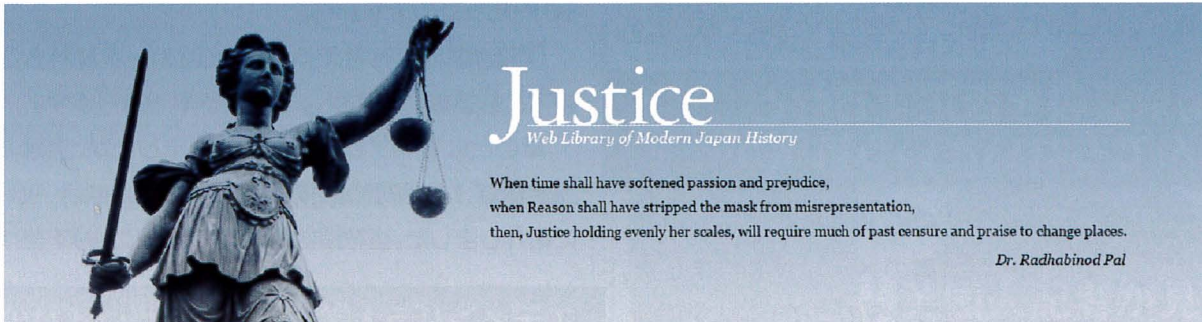
BOOKS

ARTICLES of Historical Fact

REVIEW of English Language Books

OPINIONS from Our Society

MAIL MAGAZINE



UNESCO事務局長 イリナ・ブコバ殿 ユネスコに嚴重抗議

「南京大虐殺文書」記憶遺産登録決定は恥すべき暴挙である
再審査、取り消しを勧告する
「史実を世界に発信する会」

「南京大虐殺」なるものは、戦時謀略宣伝にすぎないということを当会では再三にわたって明らかにする文書を英文で発表し、ウェブサイトに掲載してきた。書籍6点、論文／主張等20点以上にのぼる。<http://www.sdh-fact.com/>

中でも、胡錦濤主席が平成20年5月来日の折に、南京事件研究グループ「南京事件の真実を検証する会」(会長:加瀬英明)が提出した公開質問状が重要なものである。南京事件が成立するために決定的な重要ポイント5点につき、成り立ち得ないことを説明し、反論を求めたものである。

中文の公開質問状を、駐日中国大使館に送付すると同時に、ウェブサイトに、中・英・日文の公開質問状を掲載し、またこれをNewsletterにより、内外に発信した。下記のとおりである。

中文:http://www.sdh-fact.com/CL02_3/18_S1.pdf

英文:http://www.sdh-fact.com/CL02_3/17_S1.pdf

日文:http://www.sdh-fact.com/CL02_3/19_S1.pdf

胡錦濤主席、またそれに代わった習近平主席からもこれに対する返答は来ていない。

返答できるはずがないと我々は考えているものであるが、ユネスコは最低限、これに対する回答を中国政府に求め、その結果に基づいて登録の可否を決めるべきである。

一方的な主張と客観性を書く証拠文書に基づいて「記憶遺産」に登録するなどということは、道義的にも学問的にも認められるものではない。

再考を強く要求するものである。

「史実を世界に発信する会」

会長 加瀬 英明

* この不当極まりない、UNESCOの決定に、当会では上記の内容を英文で Irina Bokova 事務局長ならびに 4000 の海外のアドレスに送りつけました。

記憶遺産撤廃を目指して

この決定に至るまでに、幸福実現党、南京の真実国民運動が、抗議、反論を UNESCO に対して行っておりましたが、当会の英文資料を両者に提供し、また東中野先生の『南京虐殺の徹底検証』の英訳書“The Nanking Massacre: Fact versus Fiction”15冊を UNESCO の委員に渡してもらうなど、支援をいたしました。

我々の英文サイトには、南京に関して、書籍6点、論文等20点を掲載しております。今回中国が11項目について登録申請してきましたので、具体的に反論が非常にしやすくなりました。これら英文資料も活用しつつ、国民運動と協力しながら UNESCO 記憶遺産からの取り下げに向けて活動していきたいと考えております。

南京虐殺を否定するなど とんでもないという抗議が

From: Mark E.
Sent: Monday, October 12, 2015 3:13 PM
To: MOTOKI
Subject: Re: SDHF Newsletter No.102 Protest to UNESCO

Dear Mr. Moteki,

It is morally and academically wrong to continue to insist that the Nanjing Massacre did not happen. As the translator of Yoshimi Yoshiaki's

このメールに対して早速抗議のメールが入りました。オランダのライデン大学講師の Ethan Mark 氏からです。

「南京虐殺を否定するのは、道徳的にも学問的にも間違っている」と居丈高に断定するのですが、「胡錦濤への公開質問状」に答えられないで南京虐殺を主張するのは、道徳的にも学問的にも認められない、とわれわれが言っていることに対して一つも反論できずに只こう言ってるのです。

この人物、吉見義昭の本を英訳している、と誇らしげに言っていますので、共産主義者は学者であっても自分に都合に良いことしか言わないということを知らないのか！と言ってやりました。更に詳しい反論をしておきましたが、反応はありませんでした。できるはずもないでしょう。

ユニークな視点から慰安婦問題を 論ずる韓国人の著作を完全英訳！

韓国の 米軍慰安婦は なぜ 生まれたのか

崔吉城

(中立派、文化人類学者による音訳と弁明)

韓国に日本を責める
資格があるのか？

慰安婦問題に、米軍が関与した事実により、この問題をめぐり、韓国メディアから「慰安婦に謝罪し、賠償を求め、慰安婦を救済する」という主張が、韓国政府に提出された。この主張は、韓国政府が「慰安婦問題」をめぐり、日本を責める資格があるのか？という問いに答えるものである。

ソウル北方40キロほどの村に住んでいた著者が10歳の時に朝鮮戦争が起きます。北朝鮮軍、中国軍に占領された村を「解放」してくれた連合軍(米軍)でしたが、その歓迎すべき連合軍(米軍)が、村の女性をあさり、暴行、強姦を重ねる村の重大な脅威と化したのでした。これを救ってくれたのはソウルからやってきた売春婦達でした。「米軍売春村」の設置によって村の危機が解決されたことを体験したことをベースに、韓国政府公認の売春施設の広がり、戦争と性、売春、そして韓国の社会の変化についての考察を行った本です。

日本軍の慰安所の設置はこうした事態が起こることを防ぐために、当時合法的に行われていた「遊郭」と同類のものを海外

駐屯軍地区に開設したものでした。遊郭と同じく経営は民間業者が行い、「慰安婦」の募集も彼らが行っていました。

本書の第6章は、2013年8月に韓国で発売された『日本軍慰安所管理人の日記』(イスプ社)の主要部分を載せています。韓国人の売春業に携わった人の日記なので、当時の慰安所の実態がかなり正確に反映された記録と考えることができます。実際、ここで書かれているのを見ると、戦地という特殊性を除けば、日本国内、あるいは朝鮮における「遊郭」と同類ということがわかります。ただこの管理人は相当な稼ぎをしていたようで、2000円、600円、500円と送金しています。上等兵の月給が10円だったのですから。

「慰安婦問題」を考える上で、当時の一次資料も含めて非常に参考となる資料を提供してくれる本であります。

章ごとにアップして紹介してきましたが、全編の訳が完了し、完全版が11月初めに掲載され、Newsletter 98-Fにて世界に紹介しました。崔教授は海外での出版に意欲を燃やしています。

エディンバラ大学教授から見当はずれの批判が！

From: ZACHMANN, Urs Matthias
Sent: Tuesday, August 18, 2015 9:43 PM
To: MOTOKI
Subject: Re: SDHF Newsletter No.98-4The Origins of the US Army's Korean comfort women 2015-08-17

Dear Mr Moteki,

thank you for this.
However, I must say, the implied argument that because this

この第3章を Newsletter で紹介したところエディンバラ大学のザックマン(Matthias Zachmann)

教授から、他の国で同じようなこと(それも日本よりはより非組織的な)があるからといって、日本軍のこれらの行為の卑しさを減ずることにはならない、という投書がきました。

私が言おうとしていること、そして本の内容を理解せず、最初から決めつけて見当はずれの批判をしてきたのには驚きました。

冗談ではありません。何も、韓国でも米軍用の慰安所があったではないか、などと私は言おうとしているわけではなく、また崔吉祥教授が言ってるわけではありません。私が強調しているポイントは、解放軍と歓迎されて村に入ってきた米軍が、しばらくすると女性あさり、婦女暴行を働くようになり、村人は戦々恐々、耐えられない状態になりました。その状態を救ってくれたのは、ソウルからたくさんの売春婦が村に来て、売春宿が広がったことであった、という事実をどう考えるか、ということです。

日本軍はこういうことが起こる可能性が高いことを予想して、事前にそれを防御するために、当時合法であった、遊郭などと同じ原理の「慰安所」を海外駐屯軍地区に開設したということです。これは、犯罪どころか、非常に人間性を理解した人道的な措置だったではないか、と教授に反論を送りました。

ザックマン教授がこれを理解してくれたかどうかわかりませんが、残念ながら返事はまだきておりません。ハッキリいいますとこの程度の理解が世界の学者のレベルであるということです。そのくせに自分たちは、高級な考えを持っていると錯覚して日本を批判しているわけです。

Newsletter

9号で紹介したあとに発行された Newsletter は次の通りです。

- 98-3 韓国の米軍慰安婦はなぜ生まれたのか：第2章
性暴行から売春へ
崔吉城(広島大学名誉教授・東亜大学教授)
- 98-4 韓国の米軍慰安婦はなぜ生まれたのか：第3章
売春の広がり
- 98-5 韓国の米軍慰安婦はなぜ生まれたのか：第4章
韓国における性倫理・貞操観念
- 98-6 韓国の米軍慰安婦はなぜ生まれたのか：第5章
日本軍慰安所管理人の日記
- 98-7 韓国の米軍慰安婦はなぜ生まれたのか：第6章
朝鮮戦争と韓国社会の変化
- 98-F 韓国の米軍慰安婦はなぜ生まれたのか：全編
- 99 「慰安婦問題」アメリカの学者声明に日本の学者
110名が反論
- 100 「慰安婦問題」20人のアメリカの学者声明に対す
る日本の学者50名が反論
- 101 「慰安婦問題」187人の学者による声明文に署名
した人々に贈る批判文
(慰安婦の真実国民運動)
- 102 ユネスコに嚴重抗議「南京大虐殺文書」記憶遺
産登録決定は恥すべき暴挙である 再審査、取り
消しを勧告する「史実を世界に発信する会」
- 103 UNESCOはPRCの宣伝機関か (Moguro
Fukuzo)

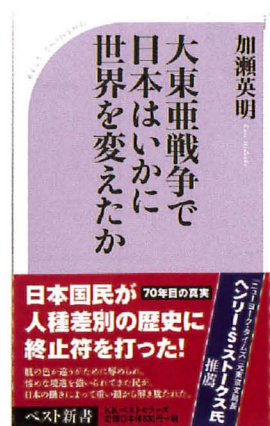


乞うご期待 大東亜戦争で日本はいかに世界を 変えたか

(加瀬英明)(ベスト新書)

次回より、各章ごとに英訳を
アップして、Newsletterで紹介
していきます。

当会会長の力作が英語になっ
て登場し、世界に発信されます！



ヘンリー・ストークス氏の話
のベストセラー

英国人記者が見た
連合軍戦勝史観の虚妄

(祥伝社)
アメリカでの出版が決定！

10万部のベストセラー作の英語原文につきましては、昨年
各章ごとにアップし、Newsletterにて紹介してまいりました。
全編がアップされた時点で、アメリカ出版社へのアプローチを
開始するために、サイトからは削除しました。

その後1年以上に渡り、十数社にアプローチを行ってまいり
ましたが、幸い出版してくれるところが見つかり、目下その詰
めの交渉を行っているところです。順調に行けば、来年春には
アメリカでストークス氏の本がアメリカで発売されます。最終
契約が成立しましたら、出版社その他詳細をご紹介します。

時間はかかりましたが、ようやく我々の主張が海外の出版物
として出ていくようになってきました。

史実を世界に発信する会 役員・顧問

代表 加瀬英明

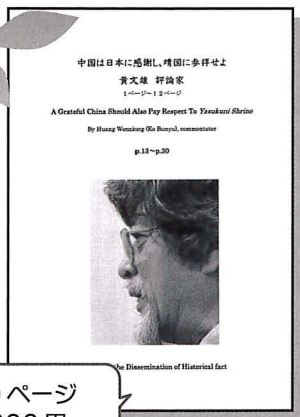
委員 茂木 弘道(事務局長)
委員 西大路 達樹
委員 藤田 裕行
委員 菊地 正
委員 原島 聡
委員 佐伯 一馬
委員 空花 正人
委員 東郷 勇策
委員 佐々木 俊夫
監事 濱田大三

顧問 長谷百合子
顧問 大原康男
顧問 長谷川三千子
顧問 日下公人
顧問 藤井厳喜
顧問 ペマ・ギャルポ
顧問 黄文雄
顧問 宮崎正弘
顧問 小堀桂一郎
顧問 百地章

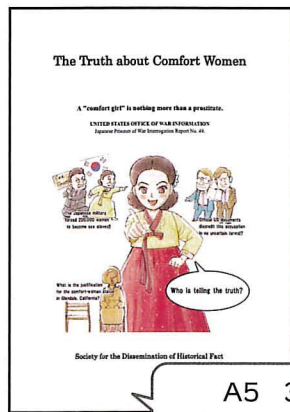
顧問 杉原誠四郎
顧問 渡部昇一
顧問 石平
顧問 高山正之
顧問 田久保忠衛

冊子を内外に大いに広めましょう!!

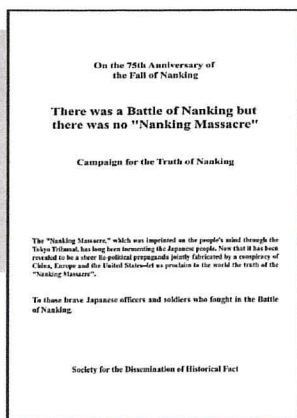
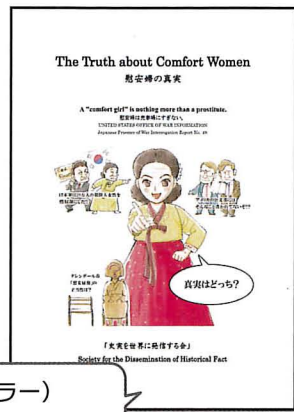
「発信する会」事務局までお申込み下さい。送料は全て無料です。
支払いは、送付時に郵便振替用紙を同封しますので、それでお支払い下さい。



A4 30ページ
定価 300円
10部以上 200円



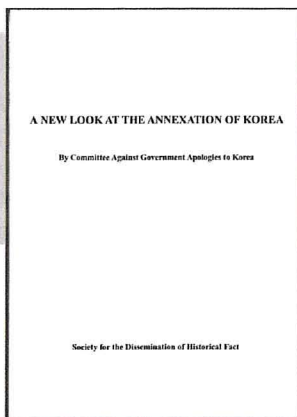
A5 30ページ(カラー)
定価(英語版、日本語版共) 200円
10部以上 100円



南京戦はあったが、
南京虐殺はなかった

There was a Battle of
Nanking but there was was
no "Nanking Massacre"

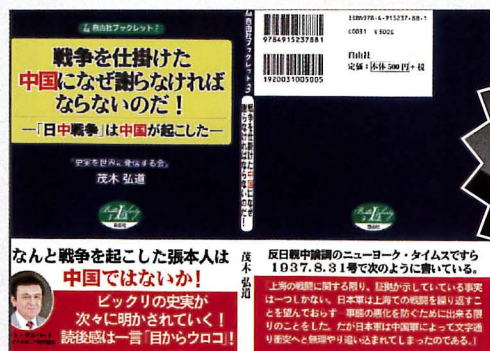
A4 140ページ(英文版)
定価 1000円
10冊以上 500円



日韓併合は日本の誇り

A NEW LOOK AT THE
ANNEXATION OF KOREA

A4 140ページ
(カラー・英文)
定価 2000円
10冊以上 1000円



攻守大逆転の
本が出ました!

中国に対する「贖罪意識」が日本人の精神をむしろむしばむこと甚だしいものがあります。しかし、史実を正しく検証するなら、中国との戦争は日本が起こしたのではなく、中国が仕掛けたものであることが分かります。何も「贖罪意識」など持つことはないのです。この事を史実を丹念にたどりながら論証したのが本書です。黄文雄さんの上掲書と合わせて、中国に対する「歴史戦」において大反転攻勢をかける武器となるものです。

小堀桂一郎先生のおことば

誰でもが手軽に撮って読む気になれるような小冊子であるにも拘らず、事項注が丁寧に付いている上に、年表あり、地図あり、新聞のコピーが載せられてある親切さ、と、全編の説得力は大変なものだ、と思います。ご労作に敬意を評しますと共に、本書の広汎な普及を衷心から祈っております。戦勝国史観への強烈な反撃です。

支援金募集中

日本の名誉を守るために、海外に向けて情報発信を実行しています。国を思う皆様のご支援を是非お願い致します。

個人会員(年会費 1 口) 1 万円
賛助会員(年会費 1 口) 10 万円
法人会員(年会費 1 口) 30 万円
支援協賛金(金額随意)

+郵便振替 00170-1-389220
+三井住友銀行日比谷支店 普通 8286008
口座名: 史実を世界に発信する会

※会費・賛助金等をいただいた方のお名前は、イニシャルにて、収支報告書ページに掲載します。又、収支報告書は、半年ごとに作成して掲載します。

史実を世界に発信する会たより

Vol.10 平成27年12月1日

発行所

史実を世界に発信する会
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-13-14
新佐久間ビル 3F
電話 03-3519-4366
FAX 03-3519-4367

日本語版サイト <http://hassin.org/>
英語版サイト <http://www.sdh-fact.com/>
事務局メールアドレス info@hassin.sakura.ne.jp